

むつ総合病院外科 研修プログラム（平成 23 年度）

文責 研修指導責任者 橋爪正

【外科の特徴】

診療対象は消化器外科・一般外科・乳腺外科・甲状腺外科および肛門外科などである。当院は下北地域の一般外科診療の中核を担っており、急性腹症や外傷などの救急手術に対応し 24 時間オンコール体制で対応している。

また当院は地域がん診療連携拠点病院である。近年胃がん、大腸がん、乳がんなどがん患者が下北地域においても増加し、その治療成績は年々向上している。一方で、治りにくい患者の数もまた確実に増加する。

がん診療において、必要な情報を医療者と患者が共有し、個々の患者を全人的に把握できるように努めながら、エビデンスを重視した質の高い最新の医療を実践しつつ、チーム医療を推進することにより患者中心の医療の実現に努めている。がん化学療法や緩和ケアについてはチームでの関わりを重視し、患者、家族の不安を少なくする配慮と、患者、家族の思いに共感できるよう努める。

さらに、地域の予防医学の一環として乳癌・甲状腺癌検診と検診二次精査を積極的に行い、下北地区の健康管理と住民への啓蒙に寄与している。

研修指定病院として、次の世代の医療を担う研修医の教育に多くの力を注いでいる。研修医は医療チームの一員として診療に携わるが、当科では多くの症例を経験しながら基本的な診断、手術手技、周術期管理法を短期間のうちに習得できるよう工夫している。

【一般目標】

地域住民のために高品質で、包括的かつ全人的な外科診療を実践できる外科専門医を養成するために、段階的に進む研修プログラムを実施し、研修医が外科に関する幅広い診療能力を得ることを目的とする。

具体的には外科学総論（基礎的知識）の学習から始まり、一般外科診療と基本的手術手技や技術の習得、実地臨床から得られる体験から自己学習を促進し深化させることである。研修プログラムを達成することにより、日本外科学会、日本消化器外科学会など外科系専門医の認定資格を得ることができる。

【行動目標】

1. 基礎的知識の習得

1) 外科に必要な局所解剖の理解

- 2) 外科病理学の基礎の理解
- 3) 腫瘍学の基礎的知識（癌化の機序、TNM 分類、化学療法、放射線療法）
- 4) 周術期管理を行うのに必要な病態生理の理解
- 5) 輸液、輸血を実施するための基礎的理解
- 6) 血液凝固線溶系の異常や血栓症についての基礎的理解
- 7) 病態に応じた栄養投与、管理法の実施と侵襲時の生体反応と代謝の理解
- 8) 発熱と各種感染症の鑑別、治療法の選択、抗菌薬の特徴の理解
- 9) アナフィラキシーショック、GVHD、組織適合と拒絶反応などの理解
- 10) 創傷治癒の理解
- 11) 外科感染の理解（消毒法、手術部位感染（SSI）、治療など）
- 12) 各種の麻酔方法の原理と機序の理解
- 13) 集中治療室の管理（人工呼吸器、敗血症、DIC や MOF の理解）
- 14) 基本的な救命救急医療の理解（蘇生術、ショック、重傷外傷や熱傷）
- 15) カルテ記録の記載法と保険制度や医療経済の現状の理解

2. 検査、処置、麻酔手技の実施

- 1) 検査手技の適応を判断し病態を診断することができる。
超音波診断、X 線撮影、CT、MRI、消化管などの各種造影検査、血管造影、内視鏡検査、心電図、呼吸機能検査、心臓カテーテル
- 2) 周術期管理ができる。
輸液管理、輸血療法、疼痛管理、出血傾向と血栓症、抗菌薬使用薬剤の有害事象への対処、血糖管理、経腸栄養、術後譫妄への対処
デブリードマン、切開ドレナージ、SSI 予防
クリニカルパス作成、バリエーションとアウトカム評価
- 3) 麻酔手技が実施できる。
局所・浸潤麻酔、脊椎麻酔、気管挿管による全身麻酔
- 4) 外傷の診断、緊急手術の適応の判断、トリアージ、初期治療ができる。
- 5) 外科的クリティカルケアができる。
消毒法、創処置と創縫合、採血法、血管確保、ALS、動脈穿刺、中心静脈カテーテル挿入と管理、人工呼吸器管理、気管切開、胸腔ドレナージ、心嚢穿刺、熱傷初期の輸液療法
ショック、DIC、SIRS、CARS、MOF などの診断と病態別治療
抗癌剤と放射線療法の有害事象の治療
- 6) 専門医への転送の判断ができる。

3. 一定レベルの手術を適切に実施し、その臨床応用ができる。

- 1) 一般外科領域の手術を術者、助手の双方で経験する。
術者となる際は必ず当該分野の指導責任者または指導医と共に手術する。
括弧内は1年間に経験する最低症例数の目安となる例数である。
消化管および腹部内臓 (25例)、乳腺 (5例)、小児外科 (5例)
体表、内分泌外科 (5例)、外傷 (5例)、各種ヘルニア手術 (5例)
肛門疾患 (3例)、呼吸器 (3例)
 - 2) 上記1)の各分野における内視鏡手術 (腹腔鏡・胸腔鏡を含む) (10例)
 - 3) 希望があれば、他の先進的な医療施設の手術見学を行うことができる。
4. 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。
- 1) 入院から退院までの経過を通じて情報の収集、治療計画の立案、手術、周術期管理から退院後の計画まで一連の過程を理解し、グループ診療による **on the job training** を実施する。
 - 2) コメディカルと協力してチーム医療を実施する。
 - 3) **Communication skill** を習得し、適切なインフォームド・コンセント、インフォームド・チョイスを実施することができる。
 - 4) 緩和ケアを理解し、早期から適切に実践する。
 - 5) 研修医や学生に外科診療に関する指導ができる。
 - 6) 知識が不確実なときや判断に迷う場合は、自主的に指導医や文献などを利用することができる。
5. 生涯学習の基本を実行する。
- 1) 経験した症例のカルテ記載に正確を期すとともに、症例から学んだ成果を確認し、蓄積する態度を身につける。
 - 2) 専門の論文、学術発表から情報収集するとともに、批判的な吟味を行うことができる。
 - 3) 積極的に学会、学術カンファレンスに出席し、討論に参加する。
 - 4) 症例報告や臨床研究結果を学術集会で発表したり、学術出版物に投稿する。

【研修計画】

1. 週間のスケジュール

月、火、木、金	8:00~8:15	病棟回診
	8:15~8:30	術前カンファレンス (内科、外科、麻酔科)
	8:30~10:00	超音波検査、X線撮影、各種造影検査
	10:00~12:00	写真みせ (入院)、病棟回診、病棟業務

	13:00~	手術、検査、病棟業務
水	午前中	(月、火、木、金)と同じ
	13:30~15:00	X線撮影、各種造影検査(入院)
	16:00~16:30	手術標本切り出し(病理)
	16:30~17:30	写真みせ(外来)
毎月不定期	17:30~18:30	外科カンファレンス
不定期	17:30~19:30	外科系講演会

【研修評価】

1. 行動目標に関する態度、知識については指導医、看護師などがその都度評価するとともに、研修終了時に研修医はレポートを提出する。
2. 行動目標に関する知識については研修中に指導医が評価し、定期的に双方向で観察記録の記載を実施する。
3. 専門分野の学術集会への出席と年1回以上の学会発表と論文作成を行う。

【スタッフ】

指導責任者：副院長・外科部長 橋爪 正 (弘前大学、昭和56年卒、医学博士)

日本外科学会 専門医、指導医

日本消化器外科学会 認定医、専門医、指導医

日本消化器病学会 専門医、指導医

日本大腸肛門病学会 専門医、指導医

日本がん治療認定医機構 がん治療暫定教育医

日本乳癌学会 認定医

ICD (インフェクション・コントロール・ドクター)

弘前大学消化器外科 臨床教授

研修指導医：外科副部長 松浦 修 (弘前大学 平成元年卒、医学博士)

日本外科学会 専門医

日本消化器外科学会 認定医

検診マンモグラフィ読影認定医

弘前大学消化器外科 臨床准教授

研修指導医：外科副部長 山田恭吾 (弘前大学 平成7年卒、医学博士)

日本外科学会 専門医

日本消化器外科学会 認定医、消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構 認定医、がん治療暫定教育医
検診マンモグラフィー読影認定医
弘前大学消化器外科 臨床准教授

研修指導医：外科副部長 中山義人（弘前大学、平成 17 年卒、医学博士）

研修指導医：外科医師 吉澤忠司（弘前大学、平成 20 年卒）
検診マンモグラフィー読影認定医